

常任委員会



9月9日に総務文教委員会・経済建設委員会を開催し、各委員会へ付託された議案を審議しました。

以下は主な質疑の内容です。

Q 新車登録から13年を経過した三輪以上の乗用車は、一気に1.8倍の税率に上がる。これでは廃車せざるを得ない。

A 環境対策を考えた改正内容であり、13年を経過するまでは7,200円、経過後は12,900円になります。

Q 税条例改正により変更される農耕用小型特殊自動車への課税率は、標準税率^{※1}によるものか。それとも町独自に決定するのか。

A 農耕用車両の税率については、市町村の判断に委ねるとされており、市町村によって違います。県内の状況、ナンバーを付けていないことへの不公平感の解消、農業振興の面から町の方針を立て決定しました。

Q 軽自動車税が改正さ

Q 農地情報の電算システム委託料24.8万4,000円の補正について。

A 農地法の改正を受け、農地台帳及び地図の整備をするための費用です。全額補助で実施します。

決算特別委員会



9月10日・11日・12日の3日間にわたり、決算特別委員会を開催し、平成25年度各会計決算を集中審議しました。

以下は主な質疑の内容です。

Q 平成25年度予算について国は、いわゆる15か月予算^{※2}を編成し、地方財政財源を確保した。しかし、本町の決算規模を見ると、さほど変化はない。実際に五霞町では、どのような成果があったのか。

A 地域元気臨時交付金として、国から1,226万4,000円が交付されています。交付金の使い道については、対象事業となつている道路の修繕工事費に充当しました。

Q 基金情報の電算システム委託料24.8万4,000円の補正について。

A 農地法の改正を受け、農地台帳及び地図の整備をするための費用です。全額補助で実施します。

Q 基金積立金が前年度対比で6.3%増え、総額では25億円近くになっている。この積立金をいかにまちづくりの施策に活用するかという問題があるのでは。

A 当初予算編成時において、基金を取り崩さないという考えが強い。基金の取崩しと起債のバランスを取りながら、実質公債費率を下げる努力をしていきます。

Q 大変厳しい財政状況の中、財政力指数^{※4}が0.80で自主財源が62.8%ということ、町の財政は全体的に見ると健全と思うが、どのように考えているか。

A 財政力指数では、本町は県内でも上位にありますが、ただ、今定例会でも条例の改正をお願いしているように、法人税の所得割が国税化になると、試算では町民税が4,400万円の減収です。今後、そういう部分で市町村が疲弊していくのではないかと懸念するところ。国の動向を注視して財政運営を進めていきます。

Q 基金積立金が前年度対比で6.3%増え、総額では25億円近くになっている。この積立金をいかにまちづくりの施策に活用するかという問題があるのでは。

A 当初予算編成時において、基金を取り崩さないという考えが強い。基金の取崩しと起債のバランスを取りながら、実質公債費率を下げる努力をしていきます。

Q 減少し続ける人口の推移をどのように見ているか。

A 本町の人口は年間約100名ずつ減少しています。人口減少問題は、町だけでなく県・国レベルの問題ですが、町とし